障サ協
広報紙

山口県障害福祉サービス協議会通信

発行：山口県障害福祉サービス協議会　広報委員会　〒753-0072　山口市大手町9番6号
電話：083-924-2799　FAX：083-924-2798　メール：syougai@yg-you-i-net.or.jp

【活動目標】支援現場での三障害一元化を目指し、障害者の存在それ自体を我が事とする価値観をもって、諸事業に真摯に取組みます

会員事業所紹介（第14回）

相談支援事業所　びれっじ

生き生きとした生活のお手伝い

広報委員が会員事業所を訪問し、支援現場の雰囲気に触れながら、職員や利用者との関わり、事業所の特色やアピール点、課題や悩み等についてお聞きする事業所紹介です。

今回は、下関市にあります社会福祉法人内日福祉会相談支援事業所びれっじをご紹介します。お話を伺ったのは管理者の沖村文子さんです。

1．開設の経緯をお聞かせください。

沖村：平成24年7月にぱれっとという放課後等デイサービスと相談支援事業所を開設し、2年前に相談支援事業所を独立して現在のびれっじになりました。びれっじはvillage＝村が由来ですが、今の時代に村組織が必要ではないかという意味が込められています。行動には納得いかないこともあるけれど、その人全てを否定してはいけないと思うのです。困ったときはお互い様の精神で希薄な世の中に対して、本当に大事なものは何かを考えないといけないという思いも込められています。

2．現在の利用状況を教えてください

沖村：現在は3分の1が成人で残りが児童という割合です。ほとんどが発達障害・自閉症に知的障害を併せて有する方です。件数は300程です。また去年からは山口県から『山口県発達障害者コンサルテーション強化事業西部地域支援マネージャー』を受託しています。

相談支援事業所　びれっじ

設置法人：社会福祉法内日福祉会
実施事業：指定一般相談支援、指定特定相談支援、指定障害児相談支援
管 理 者：沖村　文子
〒751-0875　山口県下関市秋根本町1丁目5番6号
TEL. 083-249-6095　FAX. 083-249-6099

3．特性に応じた配慮や工夫を教えてください。

沖村：面談にはノート型ホワイトボードを使用しています。見えない部分を想像することが苦手な方に対して、ノート型ホワイトボードで会話を見える化し、面談後にはこのノートをプリントアウトしてお渡しする事で、より安心されます。

4．虐待案件等に対して配慮をされている事はありますか。

沖村：虐待で案外多いのはネグレクトかもしれません。「子供が食べないから、食べさせていない」などの場合、親には虐待の意識はないように思います。また、教え方がわからないからそのまま放置、または、教え方が分からないために親が手を出してしまう場合もあります。その事が子供の中では記憶として残り、思春期になると立場が逆転して、家族が虐待を受けるケースもあります。その様なケースに介入する時は、関係機関と連携し、見守り体制を構築していきます。

　また、家庭での生活リズムが身につかず、治療施設に入所するケースが多くなっています。理由として考えられるのは、幼少期からのスマホ、タブレット依存症です。取り上げると泣き叫ぶから渡さざるを得なくなる→夜起きている→朝起きない→学校も行かないという負のスパイラルになる。本来は家庭内で対応するべきことですが、児童相談所が介入する件数も多くなっています。タブレット等では瞬時に回答を得る事ができるので、脳内で深く考えなくなり、ちょっと考える場面があると諦めてしまうことが多い。集団の関わりにも諦めることが多く見られます。そのため、集団に入った時の不安感などから不登校になることもあります。

　反対に発達障害の方にはタブレットで授業をする方が周囲の雑音がない為、集中できるという利点もあります。

ノート型ホワイトボード